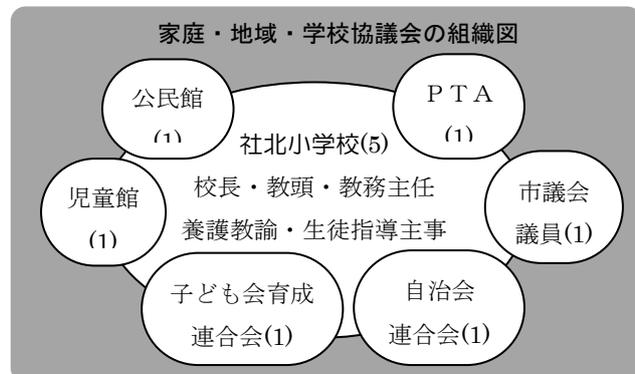


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



※地域コーディネーター（3名）

公民館長、公民館主事、社会福祉協議会会長

### (2) 協議会の内容

- 第1回 令和元年6月6日 18:00～19:00  
・スクールプランについて  
・学校の現状 等
- 第2回 令和元年10月23日 9:30～11:30  
・教育ウィーク中の学校公開にあわせて授業参観
- 第3回 令和2年2月28日 11:30～12:30  
・今年度の学校評価について  
・生徒指導、保健健康について
- ※これら以外に、中学校区の協議会を令和2年1月28日に開催。

### (3) 協議会における成果と課題

地域の生の意見を頂戴する貴重な機会で、学校教育活動に対しての外部評価を得るとともに児童の学校外での姿や地域での子どもを取り巻く環境や子どもの活動が理解できた。今年は、社北地区で「子ども食堂」の取組が始まったことがわかった。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域コーディネーターの協力を得ながら、地域との関わりを深め、地域を見つめ、地域のすばらしさに気づき、地域を愛する心を育む。

### (2) 活動の実際

#### ①「ハートで握手大作戦」障害のある方や高齢者との交流及び理解学習（4年生）

4年生では、10月から2月の総合的な学習の時間を利用して、障害のある方やお年寄りを招いて、お話を聞いたり、昔遊びを教わったり、点字・手話を学んだりもした。2月には、お世話になったゲストティーチャーや保護者、3年生を招いて、グループで学習の成果をまとめ、ポスターセッション形式で発表会を行った。発表会では、自分たちが学んだことを3年生にも伝えようと、ブラインドウォークなどの体験コーナーを設置するなど工夫がみられた。

### (3) 地域コーディネーターの活動概要

講師やゲストティーチャーとなる地域のお年寄りや障害のある方との連絡調整

### (4) 特に工夫した事項

計画的に講師の方をお招きし、体験的な学習も取り入れ、最後の発表会では誰もが関わり合える社会を自分たちが作ろうと誓いを立てるなど、外部への発信を意識した。

### (5) 成果と課題

誰もが関わり合える社会の連帯の必要性に気づき、地域や社会への関心、愛着が育ってきた。また、教室を出て体験的、課題解決的な学習を地域の方々と行うことで、学習意欲の大きな喚起になると同時に、新しい発見と驚きがあり、学習効果も上がった。発表会に3年生を招いたことで、4年生には発表の大きな動機付けとなり、3年生には次年度の学習の見通しをもつとともにこれからの学習に対する意欲付けになった。

